

かさまつ

青少年育成町民会議だより

はじめてみませんか...



地域の

ふれあい



県町 三世代合同夏休みラジオ体操

平成25年7月 撮影

私たち県町では、毎年恒例の「三世代合同夏休みラジオ体操」を小学校が夏休みに入ってから2週間、笠松町役場の駐車場で開催しています。

毎朝6時半になると、子どもからお年寄りまで約70名が「おはよう」の挨拶とともに、ラジオ体操が始まります。スポーツ推進委員の「背筋、手の指先まで伸ばし、きびきびとやりましょう」との掛け声で元気よく体を動かすと、わずか数分で、結構汗ばんできます。子どもたちは、「頭がすっきりする」「おじいちゃんと一緒に体操ができてうれしい」と言っていました。

敬友クラブ（県町の老人会）は7月初めから100日間ラジオ体操を続けています。子どもたちは、途中から合流するのですが「夏休み期間中は一緒にできればいいなあ」という声も聞かれました。

「三世代合同夏休みラジオ体操」に参加することで、健全な生活リズムが保たれています。また、町内の皆さんとのふれあいの場となっています。これからも是非続けていきたいと思えます。

青少年育成部会

平成25年6月23日開催

第35回 少年の主張大会

最優秀賞に選ばれた2名の方は、少年の主張岐阜県大会 岐阜圏域選考委員会に推薦されました。(敬称略)

最優秀賞



気持ちのかよい合う笠松の町を
今井 沙英

中学生の部



奥田 桃子 筒井 徳香 森 塔子 岩越 亜裕美

最優秀賞



笠松のために 自分のために
廣井 まいか

小学生の部



下羽栗小 6年 阿部 佳乃子 下羽栗小 6年 安田 紫音 松枝小 6年 相崎 実桜 笠松小 6年 松脇 まいあ 笠松小 6年 栗本 颯人 松枝小 6年 高木 康希

青少年育成部会

青少年の作文 テーマ「家庭・学校・地域」

最優秀賞



楽しいお弁当作り
松枝小3年
白川 鈴



家族の協力
松枝小5年
木崎 千聖



「キレイ」な社会
笠松中2年
奥村 翔

優秀賞

- おてつだいは、たのしいよ
下羽栗小 1年 後藤 慶次朗
- 私と家族
笠松小 3年 多賀谷 妃女
- 笠松小のみんなはがんばる
笠松小 4年 今村 萌生
- 大好きな家族
下羽栗小 4年 加藤 碧里
- 妹との5年間から
笠松中 3年 高木 治真

(敬称略)

歩の非行・被害防止全国強調月間(7月) 子ども・若者育成支援強調月間()
地域の子どもは地域で守り育てよ
笠松町・伊勢湾地区青少年育成推進協議会 事務局



▲笠松中央公民館前にて出発式



▲トミダヤ(長池)での啓発活動



▲笠松駅での啓発活動



▲ピアゴ(米野)での啓発活動

7月7日(日)「トミダヤ(長池)」「ピアゴ(米野)」、7月11日(木)「笠松駅」にて非行・被害防止活動をして、ティッシュや花の苗を配りました。準備を岐阜工業高校の皆さんにご協力いただきました。

街頭啓発活動

青少年によい環境を

青少年育成部会

地域活動部会

三世代ふれあい活動

地域活動部会では、青少年の健全育成や地域活性化を目指して、育成員を中心に、子どもからお年寄りまでが共に交流する「三世代ふれあい活動」を推進しています。



▲田代東「三世代もちつき大会」



▲田代西「祭礼みこし」



▲中門間「夏祭り納涼大会」



▲春日・東陽・常盤町「町内もちつき大会」

家庭部会



二分の一人式

～親から子へ・子から親への手紙～

家庭部会では、親子の絆を深め合う取り組みとして、今年も10歳を迎える児童とその親が互いに手紙を送り合う「二分の一人式」を行いました。心あたたまるメッセージの一部を紹介します。

親から子へ

二分の一人式、おめでとう！
あなたが生まれてもう10年。元気で素直な素敵な子に育ってくれたね。
これからいろいろなことがあるだろうけど、あなたは人を思いやることのできる優しく心の強い子です。きっと、これからもくじけず頑張っていけると信じています。
一緒に泣いて笑って、お父さんもお母さんも家族みんながあなたの味方です。
大好きな野球頑張っ！応援しているよ。

子から親へ

いままで育ててくれてありがとう。
母さん、いつもご飯を作ってくれてありがとう。野球の服をあらってくれてありがとう。
父さん、野球のいろいろなこと教えてくれてありがとう。これからも野球をつづけてがんばります。
いつも同じことはかいで注意されているのになかなか直せなくてごめんね。10才になったので、これからは、自分で気がついて進んで直していきたいです。
父さん、母さんこれからもよろしくおねがいします。

親から子へ

二分の一人式おめでとう。
生まれて10年。大きな病気をする事なく、元気に育ってくれてありがとう。これから、楽しいことがたくさん待ち受けていると思います。もしかしたら、苦しいこともあるかもしれませんが、そのひとつひとつ乗り越えていってほしいと思います。
助けてあげられることは助けてあげるからね。そしていろいろなことに挑戦して欲しいです。自分自身を大切に、友達も大切に、他人の気持ちを思いやれる子、そして名前のように心優しい子に育ってほしいと思います。

子から親へ

ありがとう。
おかあさんはわたしが大きな病気にならないように、そだててくれたから、大きな病気にはならなかったんだと思います。ありがとう。
もし楽しいことがあったら家族で楽しもうね。わたしはいいことがあったらがんばろうと思います。あとわたしの友達やしんせきを大切にしたいと思います。本当に心優しくないたいと思うので頑張りたいと思います。

青少年健全育成講演会を開催しました



テーマ『ボランティアをさせて頂き、ありがとう』
～ 泥出しボランティアから生まれた絆 ～

講師 有限会社ペン・テック 代表取締役 田中 茂 様
日時 平成25年11月23日(土)

東日本大震災の被災地に、16回もボランティアに出向き、泥出しやお墓の修復、物販のお手伝いなど、数々のボランティア活動をされました。

特にご自身の職業技術を活かして壁の塗装をしたり、また子どもたちと一緒に取り組んだりする中で絆が深まりました。心からボランティアをしたいという気持ちが伝わるお話でした。

編集後記

「情と理」について語り合う機会があった時、夏目漱石の『草枕』の冒頭にある文章を思い出された。「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地に通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」智や理屈で生きていると過ごし難くなる。情に流されていれば自分というものを失うことになる。人との関わり方は色々あると思いますが、心根をもつて接することで真のおつきあいが出来るでしょう。私達の街を住み良くするのも、悪くするのも自分自身から始まるのかも知れません。人の心の豊かさで随分、違ってくるものです。それ故に、心豊かな人づくりが大切なのでしょう。青少年育成活動も、そんな願いで其々の地域で行われています。企画・運営されることは大変ですが、きっと素敵な出会いが生まれてきます。「情と理」のバランスを大切に。この言葉は、道徳で六年間お世話になった恩師から教わった私の大切な宝物です。(昌)